

産業観光
きりゅう紀行③



絹の着物にこだわり
伝統を守る

泉織物

明治40年創業の着尺機屋の泉織物有限会社（泉太郎社長）は、平成21年春から社内に展示スペースを開設し、同社で生産している着物や帯など200点以上を飾り、産業観光で桐生を訪れる人向けに開放し、好評を博している。

織都桐生と言われているものの、着物地の「着尺」を織る機屋は数少なくなり、泉織物は糸染めから織りまでを一貫して生産する貴重な存在。かつてはお召しを中心に織っていたが、現在は絞りの着物が主力商品である。

展示施設は、これまで倉庫として使っていたスペース約45平方メートルを活用し、桐生織（国指定伝統工芸品）および「桐生絞り」（群馬県ふるさと伝統工芸品）の着物・帯、ショール、小物などが飾られている。木製の整経台を利用した展示台や、



大正期から戦後にかけて全国の品評会で受賞した際の表彰状を表具し仕立てた屏風などを配し、こだわりのある演出で桐生織物の歴史を垣間見することもできる。

「無地のお召しをなんとか復元させたい」と若き伝統工芸士・泉社長は夢を追う。

展示場だけでなく、製織工場、染色場、手織機などの着物製造現場が見学できる。

見学希望者は3日前までに電話にて事前予約が必要。見学日は、平日（月曜～金曜）の午前9時から午後5時まで。

桐生市東5-5-16

☎ 0277-45-2449